

日本医科大学東洋医学科活動報告

部長・教授	高橋	秀実
非常勤講師	三浦	於菟
非常勤講師	平馬	直樹
医局長・医員	高久	千鶴乃
医員	廣田	薫
医員	高久	俊
医員	吉永	恵実
医員	近江	恭子(H20. 1 から)
医員	小野	顕人(H20. 6 から)
非常勤鍼灸師	國嶋	徹
非常勤鍼灸師	藤田	勇
非常勤鍼灸師	菊地	順彦
非常勤鍼灸師	二階堂	成己
非常勤鍼灸師	福岡	豊永
看護師	稲垣	桂子
看護師	石塚	純子
看護師	根岸	江梨子
秘書(鍼灸師)	日高	珠保
顧問	胡(菅沼)	栄
研修生	斉藤	均(都立広尾病院)
研修生	福山	耕治(水野診療所)

沿革

本科は、平成2年7月、東京都千代田区飯田橋にあった日本医科大学付属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学付属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(当時のセンター長は藤木健一)。平成9年7月、付属第一病院の閉院に伴い、文京区千駄木にある日本医科大学付属病院の東洋医学科として移転、東洋医学科発足当初から当科の維持・発展に尽くされた三浦於菟先生が部長となり、日本医科大学における東洋医学科が確立された。平成15年4月には日本東洋医学会の研修指定施設(指導医:三浦於菟、春木英一)として認定された。平成17年2月、部長の三浦於菟先生の東邦大学医学部東洋医学科教授への転出に伴い、日本医科大学微生物学免疫学教室教授で日本東洋医学会指導医の資格を有する高橋が東洋医学科部長を兼務することとなった。さらに平成19年からは日本アレルギー学会の研修指定施設(指導医:高橋秀実、新谷英滋)としても認定された。

診療活動

平成17年2月より東邦大学医学部東洋医学

科教授として転出された三浦於菟先生の後任として、それまで先生が築かれた日本医科大学における東洋医学の火を消さないために高橋が東洋医学科の部長を引き継ぐこととなった。その後、大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移り、平成17年4月からは平馬直樹先生を非常勤講師として、また中医師として活躍中の胡栄先生を顧問として迎え新たな体制で診療を継続してきたが、現在では、日替わりで診療担当医師、看護師及び針灸師を置き土曜日を含め毎日東洋医学の診療を行う状況となっている。その結果、日本医科大学付属病院の他科や近隣病院からの紹介患者も順調に増え、現在の1外来体制では患者をさばききれない状況となってきている。全て予約制をとっているが、この1年間の総外来患者数はさらに増加傾向を示し延べ7000人を越える状況となっている。本学付属病院を始め、近隣病院の各種診療科からの紹介患者を受け入れているため、疾患の種類はあらゆる分野に亘ると同時に、様々な科との併診となって治療が進められる場合が多い。その中でも、西洋医学では根治しにくい難病である、再発性あるいは転移した悪性腫瘍(癌)、パーキンソン病、リウマチや膠原病などの難治性進行性疾患、慢性腎炎や慢性肝炎、アトピー性皮膚炎を含むアレルギー性疾患、不妊症や生理不順を含む婦人科疾患、うつ病を主体とする精神神経疾患など多彩な疾患患者が老若男女を問わず来院する。もちろん、こうした患者群が感冒や胃腸炎・膀胱炎などの急性疾患を起こした場合には、抗ウイルス剤、抗菌剤などの西洋医学の薬剤の併用を含め適宜対処するとともに、必要に応じて血液・尿・心電図・胸部X線検査等の一般検査のみならず、CTスキャン、MRI検査、超音波検査などの様々な特殊検査を診察時のコンピュータ画面上でオーダーできる大学付属病院ならではの特徴を有している。また、後述するように、本東洋医学科では、BSL学生や前期研修2年目の研修医を受け入れているため、これら医学生や研修医の教育を含め、西洋医学の検査あるいは治療の併用を積極的に取り入れ、東洋医学と西洋医学を合体させた独自の医療の展開をめざしている。また、バックに大学の付属病院が控えているため、様々な疾患を抱えた入院患者さんも本科の治療の対象となることがあり、西洋医学的な治療に生薬あるいは鍼灸治療の併用を実施するとともに、それらの結果を

定期的に行う研修医や医学生を交えたカンファレンスで検討している。

教育啓蒙普及活動

1) 卒前教育(医学部学生に対し)

3年生に対する基礎配属：日本医科大学では、報告者高橋が医学部3年生を対象とし「東洋医学的視点も含めた生体に内在する免疫応答力への理解」というタイトルのもと、およそ20年前から選択学生に対し中医学の講義主体とした陰陽五行説を含めた東洋医学の具体的な内容や基礎的な鍼灸理論、また高橋が関与する各種診療所や病院での鍼灸治療や湯液治療の実践見学、免疫学を背景とした科学的な薬理作用の概説、そしてツムラの茨城工場でのエキス剤製造過程、薬理研究所および薬草園の見学を実施してきた。因みに平成20年度は選択者21名に対し1回1時間30分から2時間、総計20回の講義を実施した。例年このコースの選択者は非常に多く、全学生が100名足らず、コースが80コース程度あるにもかかわらず15～25名がこの東洋医学コースを選択している現状は、医学部学生が潜在的に東洋医学への興味を抱いていることを示唆している。

4年生に対する東洋医学の教育：日本医科大学では、前任者の三浦於菟先生の時代から、医学部4年生を対象とし精神医学コースの中で東洋医学の講義を実施しており、平成20年度も昨年に引き続き高橋が独自に作成したテキストをもとに講義を担当した。また、本年度より基礎医学を修了した医学部3年生に対して行われる「臨床医学総論」コースにおいて従来の倍の時間数を講義することになり、いよいよ医師としての素養の一つとしての学問体系として東洋医学が認められつつある状況になってきたと感ずる。しかしながら、まだ大学全体としては講義時間が足りないと考えられるため、今後は少しずつ講義時間を増やしていく予定である。

2) 卒後教育(研修医や大学院博士課程の学生に対し)

新臨床研修制度による研修：東洋医学科での臨床研修も軌道に乗ってきたようで、平成20年度は日本医科大学付属病院での医師国家試験取得後内科・外科などの臨床研修を終えた2年目に当たる総計40名の研修医のうち、7名が総計13ヶ月間、本東洋医学科で研修を積んだ。現在の状況では、一度に2-3名の研修医を教えるのが限度であり、大変もったいないことではあるが教育スペース面も含み、実際には当科での研修を選

択する希望者を断わらざるを得ないのが現状である。これらの研修医は配属された期間は全て東洋医学を学んでおり、将来東洋医学を自分の医療に取り込んで行きたいと考えているものの集団である。こうした研修医は東洋医学科のカンファレンスにも参加させ、自分が診た症例などについて報告させるとともに、様々な生薬に直接触れることによって、漢方薬の実際の味や匂いなどを五感を通じて学習させている。今後は、更にスタッフを充実させ研修スペースの拡大をめざし、より多くの研修医に東洋医学の素養を与えて行きたい。こうした、東洋医学科で研修を積んだ者に対しては、研修修了後も声をかけ、出来るだけ毎月1回実施している東洋医学科でのカンファレンスに参加させている。

3) 一般教育(一般大衆や医療者に対し)

平成20年度は、6月6日(金)-8日(日)に仙台で開催された日本東洋医学会のみならず、様々な学会や講演会で東洋医学に関する学術講演をするとともに、平成20年4月26日(土)には東京国際フォーラムにおいて第32回日本小児東洋医学会学術集会を高橋が会長となり教室員全員の協力の下、総勢300名に近い参加者を得て開催することができた。この大会では、「漢方薬によるアレルギー疾患の治療：その新たなメカニズムと意義について」とのタイトルを掲げ、高橋は会長講演として「アレルギー疾患誘発における新たなメカニズム」を、教育講演としては日本小児東洋医学会理事の春木英一先生には「小児アレルギー疾患と東洋医学」、そして最近アレルギー疾患に対する緑茶カテキンの作用解明に精力的に取り組んでいる九州大学の立花宏文先生には「茶葉カテキンによるlipid raftの解裂とアレルギー疾患の改善」に関しご講演を戴いた。

研究活動

生薬が作用する部位は粘膜、特に小腸の粘膜組織であろうとのこれまでの仮説に基づき、本年もさらに研究を展開してきた。こうした小腸の粘膜部位には従来末梢血中に認められた異物に対する記憶形成能を有する獲得免疫系を構築する細胞群のみならず、自然抗体を産生するB-1細胞やNKT細胞や 型T細胞、そしてランゲルハンス細胞に代表される樹状細胞群などが局在する。こうした粘膜局在型細胞群がウイルスや細菌などの微生物由来物質によって活性化するか否かを確認する目的で検討を重ねた結果、蛋白抗原がコレラ毒素などとともに経口的に取り込まれた場合には、粘膜局所を中心に強い免疫応答が誘発さ

れ、その免疫力によって粘膜から発生した腫瘍の成長が抑制されることを明らかにした (J. Immunol., 180:4000-4010, 2008)。こうした事実は、粘膜投与型の生薬群がある時には体内免疫応答を抑制し、また逆に亢進させる可能性があることを示唆している。また、小腸粘膜における HIV の持続感染が血液中の免疫状態を規定することを見だし、HIV を含む様々なウイルス感染症が小腸粘膜を原発巣として惹起され、全身に波及することを見いだした (J. Virol. 82:6039-6044, 2008)。もし様々な症状が生体の応答性に起因するならば、生薬群を組み合わせ経口投与することによって、小腸に局在する粘膜免疫システムが調節され、その結果体内の応答性を正常化する医学の必要性は大であり、生薬を用いた漢方治療はこのようなタイプの物ではないかと考え今後さらに研究を進めていく予定である。こうした中、癌治療で良好な成績を収めている膀胱癌の BCG による治療の謎の解明をこころみたと、BCG の感染した樹状細胞が粘膜内に棲息する NKT 細胞や 型 T 細胞を活性化させ粘膜における腫瘍増殖を抑制する可能性 (Cancer Immunol. Immunother. 2008 (in press)) や粘膜樹状細胞上に発現した B7 分子群の発現を制御することによって腫瘍増殖が抑制されること (Clin. Cancer Res. 2008 (in press)) を見だし、植物群に属すると考えられる結核菌由来の粘膜免疫制御物質等が腫瘍の増殖を抑制する可能性を示した。こうしたことは、生薬群に含有されるアルカロイドやサポニンを介して粘膜免疫が活性化され、生体に発生した腫瘍の増殖を抑制する可能性を示唆している。

著書

- 1) 矢田純一、高橋秀実 (監訳) : リッピンコト・イラストレイテッド免疫学, (丸善出版), p1-360, 2009.1.10

原著

- 1) Wakabayashi A., Nakagawa Y., Shimizu M., Moriya K., Nishiyama Y., Takahashi H. Suppression of an already established tumor growing through activated mucosal CTLs induced by oral administration of tumor antigen with cholera toxin. J. Immunol. 180 : 4000-4010, 2008.
- 2) Fukazawa Y., Miyake A., Ibuki K., Inaba K., Saito N., Motohara M., Horiuchi R., Himeno A., Matsuda K., Matsuyama M., Takahashi H.,

Hayami M., Igarashi T., Miura T. Small intestine CD4+ T cells are profoundly depleted during acute simian-human immunodeficiency virus infection, regardless of viral pathogenicity. J. Virol. 82 : 6039-6044, 2008.

- 3) Yamashita T., Tamura H., Satoh C., Shinya E., Takahashi H., Chen L., Kondo A., Tsuji T., Dan K., Ogata K. Functional B7.2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. Clin. Cancer Res. 2008 (in press).
- 4) Higuchi T., Shimizu M., Owaki A., Takahashi M., Shinya E., Nishimura T., Takahashi H. A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma: involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. Cancer Immunol. Immunother. 2008 (in press).

総説

- 1) 高橋めぐみ、高橋秀実 : 遊離抗原による CD8+T 細胞のアポトーシス誘導, 臨床免疫・アレルギー科, 2008, 49 : 373-380
- 2) 若林あや子、高橋秀実 : 感染症と栄養・機能的食品, 日本機能的食品学会誌, 2008, 4:373-380
- 3) 高橋秀実 : HIV に対する防御・細胞性免疫の役割, 治療, 2008, 42 : 72-76
- 4) 高橋秀実 : HIV 感染伝播における母乳中細胞の役割 : 感染症に対する温病治療 SARS は攻略できるか, 血液フロンティア, 2008, 18 : 45-51
- 5) 高橋秀実 : HIV : ヒト免疫不全ウイルス感染と樹状細胞, 実験医学, 2008, 26 : 157-163
- 6) 高橋秀実 : 日本医科大学微生物学・免疫学講座, ウイルス, 2008, 58 : 232-234
- 7) 高橋秀実 : 漢方薬の解表作用 : 細胞膜上に局在化した脂質の融解と再分配の誘発, 漢方医学, 2008, 33 : 285-290
- 8) 平馬直樹 : 夏負け 2 態, 山梨中国医学研究会 第 100 回開催記念誌, 2008,
- 9) 平馬直樹 : 皮膚疾患の漢方治療の進め方, 温知会会報, 2008,
- 10) 平馬直樹・秋葉哲生 : 江戸の医案を読む 第 4 回 尾台榕堂『方伎雑誌』よりその 2, 伝統医学, 2008, 11 (1) : 46-53
- 11) 平馬直樹・秋葉哲生 : 江戸の医案を読む 第 5 回 和田東郭『蕉窓雑話』よりその 1, 伝統医学, 2008, 11 (2) : 100-108

- 12) 藤田 勇：突発性難聴に対する鍼灸治療～局所穴を中心として～，東洋医学鍼灸ジャーナル 2008，5：88-94
- 13) 福岡豊永、奥村江里：興味深い針灸症例 / 在宅医療における中医学 CRPS の症例，中医臨床，2008，28 (4)。
- 14) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第 6 回 和田東郭『蕉窓雑話』よりその 2，伝統医学，2008，11(3)：160-167
- 15) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第 7 回 山田業精『井見集付録』よりその 1，伝統医学，2008，11(4)：214-221
- 16) 高橋秀実：BCG による自然免疫の活性化，泌尿器外科，2009 (印刷中)
- 17) 高橋秀実：細胞制免疫 (CTL) の誘導と樹状細胞，臨床粘膜免疫学，2009 (印刷中)

学会発表

国際学会

- 1) Takahashi H：Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN-released through TLR3 mediated signaling. Japan-US Cooperative Medical Science Program：The 21th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels. September 13-14, 2008 (Tokyo) (Workshop)
- 2) 平馬直樹：日本におけるリハビリテーションの現状と中医学に期待される役割，河南省日中医学交流会 2008，5。(河南省)
- 3) 平馬直樹：江戸時代古方派の概観，日韓伝統医学シンポジウム 2008，10。(ソウル)

国内学会

- 1) 高橋秀実：アレルギー疾患誘発における新たなメカニズム，第 32 回日本小児東洋医学会学術集会 特別講演 東京，2008，4. 26
- 2) 樋口智江、清水真澄、野呂瀬嘉彦、近藤幸尋、西村泰治、高橋秀実：BCG 膀胱注入療法におけるサイトカイン、自然免疫を中心とする作用機序の考察，第 96 回日本泌尿器科学会総会 一般講演 横浜，2008，4. 27
- 3) 高橋秀実：BCG 膀胱内注入療法と自然免疫，第 96 回日本泌尿器科学会総会 特別講演 横浜，2008，4. 27
- 4) 若林あや子、高橋秀実：経口免疫療法と腫瘍制御，中央大学・日本医科大学合同シンポジウム 一般講演 東京，2008，5. 10
- 5) 廣田 薫、高久 俊、高久千鶴乃、吉永恵実、近江恭子、平馬直樹、高橋秀実：脾胃湿滯が症状増悪に影響をもたらしたと考えられる尋

- 常性乾癬の一例，第 59 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 仙台，2008，6. 6-8
- 6) 高久 俊、大藺英一、高久千鶴乃、廣田 薫、吉永恵実、平馬直樹、高橋秀実：透析患者 QOL の改善における漢方薬の役割，第 59 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 仙台，2008，6. 6-8
- 7) 藤田 勇、平馬直樹、高久千鶴乃、高久 俊、福岡豊永、高橋秀実：眼窩内刺鍼による動眼神経麻痺に対する鍼灸治療の一例，第 59 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 仙台，2008，6. 6-8
- 8) 藤田 勇：大学病院での緩和医療と中医鍼灸，第 6 回日本中医学交流会大会 シンポジウム 東京，2008，8. 17
- 9) 高橋秀実：自然免疫システムと生薬成分：作用解明における新たな視点，第 8 回日本臨床中医薬学会学術大会 特別講演 大宮，2008，9. 27
- 10) 平馬直樹：アトピー性皮膚炎の漢方治療，全日本鍼灸学会神奈川地方会 教育講演 横浜，2008，9
- 11) 中塚雄久、高橋秀実、坂本長逸：Rivavirin による T-Helper 1/2 細胞バランス調節の免疫学的機序と慢性 C 型肝炎に対する Interferon 治療効果の関連，第 12 回日本肝臓学会大会 シンポジウム 東京，2008，10. 1-4
- 12) 高橋めぐみ、渡邊恵理、渡理英二、高橋秀実：脂質代謝阻害剤 etomoxir の SIV 及びその宿主細胞に及ぼす影響，第 56 回日本ウイルス学会学術集会 一般講演 岡山，2008，10. 26-28
- 13) 高橋秀実：BCG による自然免疫活性化，第 1 回 BCG 注入療法研究会 特別講演 東京 2008，11. 21
- 14) 新谷英滋、大脇敦子、清水真澄、渡邊恵理、松村次郎、八木幸恵、高久千鶴乃、高橋秀実：Down-regulation of CD1 lipid / glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells，第 22 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 大阪，2008，11. 26-28
- 15) 高久千鶴乃、渡邊恵理、大脇敦子、清水真澄、松村次郎、渡理英二、新谷英滋、高橋秀実：樹状細胞と NKT 細胞の相互作用による HIV-1 感染拡大の可能性，第 22 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 大阪，2008，11. 26-28
- 16) 松村次郎、大脇敦子、清水真澄、近江恭子、秋山純一、本田元人、菊池嘉、新谷英滋、岡慎一、高橋秀実：HIV 患者の腸管粘膜における

- 感染細胞とプロウイルス DNA の検索, 第 22 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 大阪, 2008, 11. 26-28
- 17) Higuchi T., Shimizu M., Owaki A., Mayumi N., Ohmi K., Takahashi H.: Possible involvement of innate alert cells activated by the live BCG-infected DCs for intravesical BCG therapy, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 18) Yagi Y., Watanabe E., Satomi M., Watari E., Takeshita T., Takahashi H.: Inhibition of DC-SIGN-mediated HIV-1 transmission via breast-feeding by IFN- γ , 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 19) Kumagai Y., Takahashi H.: Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 and CXCR4-chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 20) Shinya E., Owaki A., Shimizu M., Watanabe E., Takaku C., Watari E., Takahashi H.: A quick and easy method of laboratory-scale production for multimeric human GM-CSF towards PBMC-derived DCs., 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 21) Katakura T., Nakatsuka K., Shimizu M., Atsukawa M., Harimoto H., Tamura H., Takahashi H., Sakamoto C.: Ribavirin interfered conversion of CD4⁺CD25⁻FOXP3⁻ T-helper cells into CD4⁺CD25⁺FOXP3⁺ T-regulatory cells in an Interleukin 10-dependent manner, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 2. 1-3
- 22) Wakabayashi A., Moriya K., Harimoto K., Watari E., Takahashi H.: Enhancement of expression of DEC-205 and co-stimulatory molecules in intraepithelial DCs after oral administration of an antigen and its involvement in mucosal CTL induction, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 23) Kobayashi F., Watanabe E., Takeuchi H., Nakagawa Y., Takahashi H.: A role of TLR2 in the activation of B-1 cells to produce autoantibodies by *Helicobacter pylori* urease, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 24) Takaku S., Terabe M., Ambrosino E., Peng J., Takahashi H., Berzofsky J.: Blockade of TGF- β enhances tumor vaccine efficacy independent of CD4⁺CD25⁺ T regulatory cells, the NKT cells, IL-13, and IL4R-STAT-6 immunoregulatory pathway, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 25) Negishi Y., Inagaki S., Kumagai Y., Takeshita T., Takahashi H.: Analysis of dendritic cell in pregnant mice, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 26) Nakagawa Y., Shimizu M., Matsumura J., Norose Y., Takahashi M., Takahashi H.: Rapid loss of CD8⁺ HIV-1 gp160-specific murine CTLs by free antigenic peptide in vivo was mediated through apoptosis, 第 38 回日本免疫学会総会 一般講演 京都, 2008, 12. 1-3
- 講演
- 1) 平馬直樹: 血の病症と治療その 2, 仙台中医学研究会 教育講演 仙台, 2008, 1.
- 2) 平馬直樹: 弁証論治概論, 郡山漢方研究会 教育講演 福島, 2008, 1.
- 3) 菅沼 栄: 瘧病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2008, 1. 24
- 4) 平馬直樹: 中医処基本方解説その 3 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2008, 2. 16
- 5) 菅沼 栄: 金匱要略解説, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2008, 2. 28
- 6) 平馬直樹: 瘀血の病症と治療, 阿蘇漢方シンポジウム 一般講演 熊本, 2008, 3.
- 7) 菅沼 栄: 中風の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2008, 3. 27
- 8) 平馬直樹: 臓腑の弁証と治療 1, 郡山漢方研究会, 一般講演 福島, 2008, 4.
- 9) 菅沼 栄: 歴節病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2008, 4. 24
- 10) 平馬直樹: 湿の病症と治療, 仙台中医学研究会, 教育講演 仙台, 2008, 4.
- 11) 高橋秀実: エイズってどんな病気?, 免疫不思議未来 特別講演 東京, 2008, 5. 3
- 12) 菅沼 栄: 血痺の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2008, 5. 22
- 13) 高橋秀実: 漢方薬の効果に関する免疫学的な考察 第 7 回お茶の水東洋医学フォーラム 特別講演 東京, 2008, 6. 11
- 14) 高橋秀実: 漢方薬の効果に関する免疫学的な

- 考察,第49回三多摩漢方臨床研究会 特別講演 東京,2008,6.28
- 15)平馬直樹: 中医処基本方解説その4, 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜,2008,7.5
 - 16)平馬直樹: 痰飲の病症と治療, 仙台中医学研究会, 教育講演 仙台, 2008, 7.
 - 17)菅沼 栄: 虚労病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京,2008,7.24
 - 18)高橋秀実: 感染症に伴う生体応答とその制御法: 新たな治療指針, 平成20年度北区夏期学術セミナー セミナー 東京,2008,8.6
 - 19)平馬直樹: 弁証論治演習, 医学生のための東洋医学セミナー 教育講演 三重,2008,8.
 - 20)平馬直樹: 臓腑の弁証と治療2, 郡山漢方研究会, 教育講演 福島,2008,8
 - 21)福岡豊永、福岡美紀: ニンブさんのための中医学, TCMN(中医学ネットワーク) 教育講演 東京,2008,8.18
 - 22)平馬直樹: アレルギー疾患の漢方治療, 青森中医学研究会, 教育講演 青森,2008,8
 - 23)高橋秀実: 自然免疫システムと疾病, 練馬区医師会小児科医会講演会 特別講演 東京,2008,9.17
 - 24)平馬直樹: 皮膚疾患の漢方治療の進め方, 特別講演 温知会記念講演 東京,2008,9.
 - 25)菅沼 栄: 肺痿の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京,2008,9.25
 - 26)菅沼 栄: 肺癰の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京,2008,10.23
 - 27)平馬直樹: 中医基本処方解説その5 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜,2008,10.25
 - 28)平馬直樹: 弁証論治演習, 第8回お茶の水漢方フォーラム 特別講演 東京,2008,10
 - 29)平馬直樹: 弁証論治の進め方, 米子洋漢医学統合研究会, 一般講演 鳥取,2008,11.
 - 30)菅沼 栄: 食養生, 国際薬膳師会, 特別講演 東京,2008,11.9
 - 31)菅沼 栄: 咳嗽上気病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京,2008,11.27
 - 32)高橋秀実: 自然免疫と東洋医学, 第8回大阪漢方研究会 特別講演 大阪,2008,2.21